

JISA 活用ベストプラクティス

コミュニティ紹介編

前号から「JISA活用ベストプラクティス」ではコミュニティ紹介編をスタートしました。

JISAは、業界団体です。情報サービス業界で働く皆さんの集まりです。

JISAのコミュニティは、皆さんが普段の業務上の課題や会社生活で抱えている悩みを一緒に解決しようというコンセプトで運営されています。

35万人が集まる団体ですから、JISAのコミュニティのテーマはさまざまです。活動のスタイルも集まっているメンバー次第です。日時、場所、インターネットを使ったりと自由に営まれています。

このコーナーでは、そうした活動中のコミュニティを紹介していきます。

ぜひこの記事を読んでJISAのコミュニティに関心をもつ人が増えることを願っています。

興味をもったコミュニティを試しに覗いてみたいという方や新しいコミュニティを立ち上げたい方は、事務局までEメールでお問い合わせください。また、活動への参加希望は下記の協会HPから登録してください。

コミュニティ参加登録サイト：<https://www.jisa.or.jp/activity/committee/tabid/1965/Default.aspx>

お問い合わせ先：koubo@jisa.or.jp

JISAのコミュニティについて

JISAのコミュニティについて事務局に寄せられる質問にお答えします。

1. 部会とコミュニティの違いは何ですか。

部会は、JISAの事業計画に基づいて設置される委員会の下部組織です。

協会理事で構成される委員会でテーマの必要性が審議され、その結果として設置されます。設置目的に基づいて活動目標が設定され、活動内容に応じて協会予算が割り当てられ、報告書などの成果物の作成やイベントの開催などの活動に取り組めます。参加者も原則として会員企業の役職員が対象です。テーマの継続性や専門性から募集を行わない部会もあります。

これに対し、コミュニティは、自由に参加し、自由に活動することがコンセプトです。活動場所、活動時間帯、参加者の制限などはありません。

2. コミュニティ型研究会とコミュニティの違いは何ですか。

コミュニティ型研究会とコミュニティのコンセプトは同じです。勤務時間中に参加するのに「コミュニティ」では具合が悪いという声から、研究会という名称になっています。

しかし、活動の時間帯は就業時間中でも就業時間外でもどちらでもかまいません。というよりも、活動の時間帯はメンバーで話し合って決めることです。

活動が参加メンバーの会社のビジネスに直接関わる内容であれば、業務の一環として、就業時間内に活動しようということになるケースが多いと思われます。一方、活動が社会貢献的な内容であれば、業務時間外に活動するケースも多いと考えられます。しかし、後者であっても会社のCSR活動をJISAのコミュニティで共同でやっていこうということであれば、業務時間内という判断もあるでしょうから、一概にはいえないうことになります。

3. コミュニティの活動成果を発表したい場合はどうすればいいですか。

事務局にご相談ください。コミュニティは自由に活動いただくコンセプトですので、活動成果を協会HPで発表したい、会員企業などにアンケートをとりたい、専門家を招いて話を聞きたいなど、活動を進めるなかでさまざまなニーズが出てくると思います。こうした場合は事務局が活動をサポートいたします。

4. 開設中のコミュニティにはどのようなものがありますか。

また、活動内容を教えてください。

開設中のコミュニティは次のとおりです。

- ▶ITアーキテクトコミュニティ
- ▶アジャイルコミュニティ
- ▶プロジェクトマネジメントコミュニティ
- ▶要求開発事例研究会
- ▶要求インスペクション設計研究会
- ▶プロジェクト健全性評価研究会
- ▶VSE（基本開発プロセス）研究会
- ▶会員連携コミュニティ
- ▶ワーク・ライフ・バランス推進コミュニティ
- ▶未来の学びを考えるコミュニティ
- ▶未踏人材連携コミュニティ
- ▶パラスポーツ支援コミュニティ
- ▶ソフトウェアエンジニアリング標準化研究会

活動内容は下記のガイドをご覧ください。

<https://www.jisa.or.jp/Portals/0/data/community2017.pdf>

また、活動状況は下記で紹介しています。

<https://www.jisa.or.jp/activity/committee/tabid/2237/Default.aspx>

【第4回 コミュニティ訪問】

会員連携コミュニティ

コミュニティ訪問の第4回目は、会員連携コミュニティを取り上げました。このコミュニティは本体のほかに女性だけのサブグループがあります。

まずは、コミュニティ本体の大津座長にインタビューしました。

—座長(大津さん)のJISA活動のきっかけは？

当社の代表に就任したのが2013年。ちょうど会員連携コミュニティが始まった年です。それまではセミナーの参加程度に留まっていたのですが、せっかく高い会費を払っているのだから、顔を出してみようと思ったのが単純なきっかけです。当時は、リーマンショック後の逆風から立直りをかけて、それまでの受託開発に加えてストックビジネスを指向し、ビジネスモデルの変革に取り組み始めたところでした。



—どんな活動されていますか。座長として心がけられていることは？

メンバー構成が経営者から一般社員まで幅広いのがこのコミュニティの特徴です。環境の変化に応じて変わっていく必要があるのはわかっているけど、具体的なアクションとなるとそれぞれに課題があって、皆さん難しいと感じていらっしゃると思います。

ご同業はもちろん競合相手でもありますが、連携しながら一緒にソフトウェア・サービスを創っていく関係を模索しています。

◇コミュニティ概要◇

座長：大津 崇さん ((株)システム計画研究所取締役)

人数：28名

特色：自由に何でも言い合える雰囲気のコミュニティです。

参加のお問い合わせ先：koubo@jisa.or.jp

そこで、各社の製品やサービスとの関わりから連携したり交流したりできないかを率直に意見交換してきました。この結果、昨年5月と10月に企画開催したのがAI・IoTをキーワードとしたビジネス交流セミナーです。合わせて120名ほどの参加をいただき大変盛況でした。

— 運営上の悩みはありますか？

毎回10～20名前後、参加していただいています。それぞれの課題や問題を明らかにするのは、それなりに抵抗があります。ですがそこを超えて腹を割って話のできる雰囲気醸成してきたつもりです。まだまだ互いに悩みをうち明けている程度ですが、いずれ何かを端緒にして連携の環ができ、さらには事業的な成果にまで結びつくことを期待しています。

— 今後の活動の方向性についてご意見をお聞かせください。

AI・IoT・ブロックチェーンといったタイムリーな話題を拾って、JISA会員以外の企業や団体も巻き込みつつ、情報交換をしていくイメージをもっています。新しい取り組みには、何かしらのつながりが要ります。もちろん独自で展開する体力があれば別ですが、中小企業も多く会員にいるJISAのなかでその繋がりをつくる場として当コミュニティを位置づけています。

— 読者へのメッセージをお願いします。

会員連携コミュニティに参加してくださることを歓迎します。どんどん連携の環が広がっていくと、また別の効果が現れるかもしれません。そんな期待もあります。キーワードは「多様化」。拡がる輪こそが多様化の糧で、我々が生き残る道だと考えます。

当コミュニティに参加している人たちは、文字通り連携をもとめています。ぜひ一度お気軽にお越しください。

— キーワードは「多様化」。
 拡げていくことで多様化する道が生き残る道。

◇コミュニティ参加企業◇

(株)システム計画研究所((株)InterFelix)、エプソンアヴァシス(株)、(株)網屋、東京海上日動システムズ(株)、富士通エフ・アイ・ピー(株)、(株)リンクレア、アイエックス・ナレッジ(株)、ARアドバンステクノロジー(株)、(株)NTTデータ ニューソン、(株)コア、(株)シーエーシー、(株)シー・エス・イー、(株)システムシェアード、(株)ジャパンテクニカルソフトウェア、(株)ゼネット、大宇宙ジャパン(株)、(株)東海ソフト開発、東和ソリューションエンジニアリング(株)、(株)富士通ラーニングメディア、(株)レンタルバスターズ

【第5回 コミュニティ訪問】

会員連携コミュニティ・サブG

コミュニティ訪問の第5回目は、会員連携コミュニティに設けられた女性だけのグループの座長の田中さんと2名のメンバーの方にインタビューしました。

—JISA活動のきっかけは？

田中さん：会員連携コミュニティが発足して3年が経過した時点で、女性のメンバーは私しかいませんでした。

女性ならではの感性でビジネス連携をすれば面白い企画が生まれるのではないかと、女性中心のサブグループ(以下、サブG)が生まれました。この業界で現場部門の女性が集まる会はあまりなく、働く女性ならではの悩みや問題意識を共有したいと考えたのが活動の出発点です。

西山さん：現場のリーダー・マネージャーという同じ視野を持った女性が会社の中には少ないので、その意味でサブGでの交流は有意義です。

働き方改革で女性の活躍にスポットがあたっていることもサブGメンバーの参加の動機の一つだと思います。

太田さん：サブGは視野を広げる場です。職場の課題を解決するにはどうしたらいいか、ここで話をすればアイデアが生まれます。

同じ業種でも業態が違えば経験や持っている解決策が違うので、それを共有することで視野が広がります。

—座長として心がけられていることは？

田中さん：定例会を2ヶ月に1回開催しています。立場や業態を超えて、自由に話すことができるような雰囲気づくり、関係づくりを意識して時には懇親会も企画します。

皆さんお忙しく一堂に会することが難しいので、オンラインのグループウェアで定例会の議事を報告したり、チャットで会話をしたり、会に参加できないメンバーとのコミュニケーションも心掛けています。

◇コミュニティ概要◇

座 長：田中樹里子さん（エプソンアヴァシス(株)事業推進2部）

人 数：15名

活動頻度：隔月で1回程度

特 色：現場部門の女性だけの集まりのコミュニティです。

参加のお問い合わせ先：koubo@jisa.or.jp

一日頃の活動内容やこれまでの取り組みは？

田中さん：毎回の定例会で、参加各社の新製品やトピックスを紹介し合うことで、お互いの業態の理解が深まりました。

この取り組みを発展させたのがビジネス交流セミナーです。このセミナーではIoTやAIを手掛けている会社の事例を紹介しました。また、私たちの活動発表として、「AIで女性の働き方を豊かに」と題して現場の女性だけのパネルディスカッションに挑戦しました。

今後もこうした取り組みを続け、ビジネス連携のきっかけとしていけたらと思います。

今後の活動の方向性や意気込みをお願いします。

田中さん：成果ありきの活動ではなく、現場で働く女性SEやリーダー・マネージャーの輪を広げる活動を展開していきたいです。悩みを共有し、解決のヒントを見つける場としてこのサブGを活用していければよいと思います。



西山さん：経営者や男性上司が私たちの活動を支援して快く送り出してくれているので、非常に活動がしやすいです。

ここで得られた知見を現場のマネジメントに活かせるので会社に還元できるものも多く、今後もこの活動を発展させていきたいです。

太田さん：もっと多くの方に来ていただくと、女性の活躍によって社会を豊かにする色々な取り組みができと思っています。現場で働く女性にもっと気軽に参加して欲しいです。

— 女性SEやリーダー・マネージャーならではの
悩みや問題意識が活動の出発点です。